

鹿児島市における精神障害者ピアサポーターとの地域づくり ～令和元年度からの歩みを振り返って～

鹿児島市保健所 所長 | 新小田 雄一

新年明けましておめでとうございます。

鹿児島市医師会会員ならびに関係者の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日ごろから鹿児島市の公衆衛生行政へのご理解・ご指導・ご協力をいただき誠にありがとうございます。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

保健所の業務として、精神保健も重要な業務の一つです。この業務は保健支援課が担っています。今回は、「にも包括」の一環として行った鹿児島市における「精神障害者ピアサポーターとの地域づくり」に関する事業および本市の保健支援課について触れたいと思います。

1 「にも包括」とは？

「にも包括」は、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の略称です。

わが国の地域精神保健医療福祉については、平成16年に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」にて「入院医療中心から地域生活中心」という理念が明確にされました。

平成29年2月には「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」での報告書にて、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（「にも包括」）」の構築を目指すこととされました。

厚生労働省も、平成29年度より「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（「にも包括」）」の構築推進・支援事業」を立ち上げ、都道府県等の取組に対して財政的な補助や技術的な支援等を行っています（図1）。

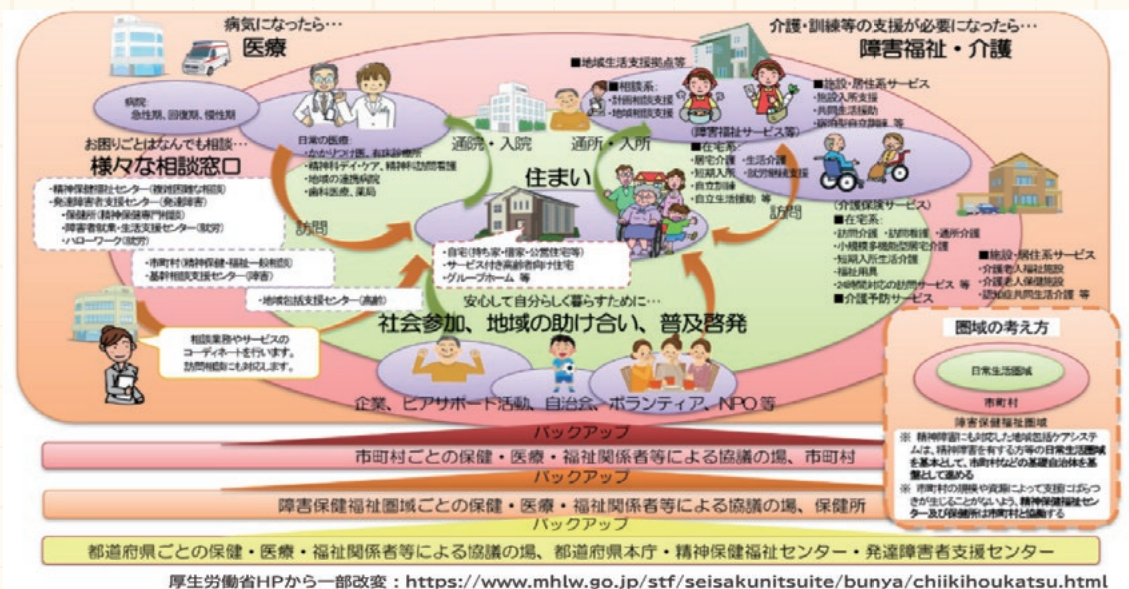


図1 「にも包括」(精神障害にも対応した地域包括ケアシステム) のイメージ

2 ピアサポーターとの地域づくり

鹿児島県の精神科病床平均在院日数は全国でも上位であり、鹿児島市においても全国平均を上回っている状況です（図2）。本市は、令和元年度から事業を通して精神障害者ピアサポーター（以下、ピアサポーター）と共に取り組んでいます。これまでを振り返り、ピアサポーターとの協働による効果および本市における「にも包括」構築の方向性について述べたいと思います。

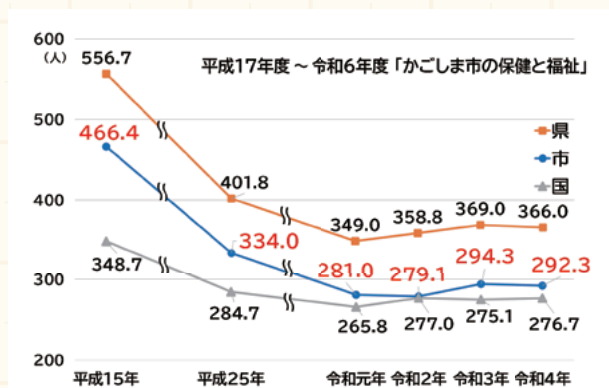


図2 精神科病床 平均在院日数

表1 事業の変遷

事業 ねらい	R1 長期入院精神障害者の 地域移行推進事業	R2~R4 長期入院精神障害者の 地域移行推進事業 ピアサポーター ステップアップ事業	R5~R6 精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築事業
顔の見える 関係づくり (協議の場)	地域移行推進会議 地域移行戦略会議	地域移行推進会議 地域移行戦略会議	地域移行推進会議 地域移行戦略会議 地域移行促進会議
ピアサポーターの 活動基盤づくり (業務委託)	地域移行スタッフとして活躍する ピアサポーターの訓練 ピアサポーター養成講座	地域移行スタッフとして活躍する ピアサポーターの訓練 ピアサポーター養成講座	地域移行スタッフとして活躍する ピアサポーターの訓練 ピアサポーター養成講座 交流会 フォローアップ研修 スキルアップ研修
地域移行の促進 (業務委託)		地域移行支援 入院患者との交流	地域移行支援 入院患者との交流
普及啓発 (業務委託)		体験談発表 市民との交流	体験談発表 市民との交流



図3 鹿児島市の事業取組推移

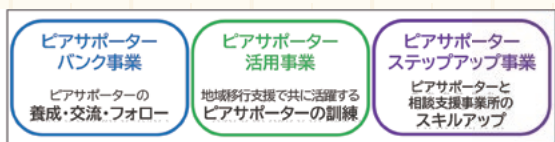


図4 「にも包括」構築事業の概要

2.1 事業の概要

鹿児島県は平成30年度に本市を含む鹿児島圏域において、長期入院精神障害者の地域移行に関するモデル事業（以下、県モデル事業）を実施しました。その結果、これまで年間1~2件であった地域移行支援件数が8件と増加したことから、市独自の事業を開始しています。ピアサポーターの寄り添う支援による長期入院患者の地域移行の推進、精神障害に対する正しい知識の普及啓発を主な目的としています。以下に事業内容の変遷を示します（表1、図3-5）。

2.1.1 令和元年度

「ピアサポーターの養成（以下、養成）」と「地域移行スタッフとして活躍するピアサポーターの訓練（以下、訓練）」の2要素を含む「長期入院精神障害者の地域移行推進事業」を開始しました。その一環で、顔のみえる関係づくりを狙いとして「地域移行推進会議」の開催も定期的に行いました。訓練は、地域移行の促進のみでなく、相談支援事業所におけるピアサポーターの雇用促進効果を期待した取組でもありました。



図5 鹿児島市における「にも包括」構築事業のイメージ

2.1.2 令和2年度～令和4年度

訓練や一般就労に結びついていないピアサポーター養成講座修了生（以下、修了生）の活動の場を拡げることを目的として、ピアサポーター同士の交流会やフォローアップ研修、普及啓発を目的とした体験談発表を含む「ピアサポーターステップアップ事業（以下、ステップアップ事業）」を開始しました。

2.1.3 令和5年度～

ピアサポーターの活動を一体的に支援できるよう、前述の2事業を統合・拡充し「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（「にも包括」）構築事業」を開始しています。ピアサポーターと協働する一般相談支援事業所の増加を目的とし、相談支援事業所同士が繋がり、ピアサポーターとの活動に関する課題や悩みを気軽に共有・助言し合える場として「地域移行促進会議」を設けました。

2.2 事業の成果

2.2.1 顔のみえる関係づくり

令和元年度から、概ね月1回の「地域移行推進会議」を開催し、コロナ禍ではオンラインを活用する等の工夫を行いながら会議を継続しました。

会議には、市内約半数の精神科病院、相談支援事業所、地域活動支援センター、基幹相談支援センター、および、行政が集まり、ピアサポーター、精神保健福祉士、看護師、作業療法士、行政保健師等の多職種が参加しています。

内容は主に、退院支援の候補者について支援の進捗確認や事例検討、日頃の業務で感じている困りや気付き、ピアサポーターの活動状況の共有などです。参加者全体で退院支援やピアサポーターが支援に入ることの有効性について検討することで、市全体で地域移行に取り組む意識が醸成されて

きています。

また、顔のみえる関係ができることで、日頃の業務で声掛け・相談がしやすくなるなど、支援者間の連携強化に繋がっています。

一方、参加する精神科病院が固定化していることは課題です。

2.2.2 ピアサポーターの活動基盤づくり

令和元年度から令和6年度までの修了生は計123名です。事業を通して地域移行支援や体験談発表等の活動者数も増加しています（図6）。

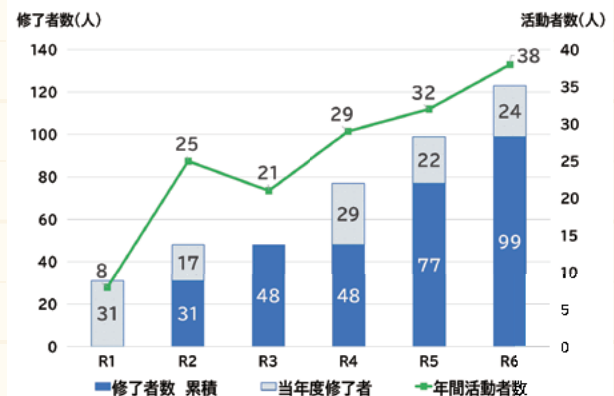


図6 ピアサポーター養成講座 修了者数及び年間活動者数

事業開始当初は、養成講座やフォローアップ研修、交流会の企画・運営を精神保健福祉士等の専門職が担っていましたが、令和5年度からは修了生が企画・運営に携わるようになり、修了生主体のピアサポートの実践に繋がっています。

一方、修了生の増加に対し活動の場が拡がらず、事業の枠組みだけでは修了生全体に対して十分な活動機会を提供することが困難となってきています。

また、県モデル事業および本市事業の修了生のうち、地域移行スタッフとして活躍するための訓練を受けたピアサポーター計27名のうち2名は、訓練終了後に一般相談支援事業所に雇用されました。その他、雇用に繋がるきっかけはあったものの、ピアサポーター自身の希望や当時の精神症状に

よる体調の波や雇用先から求められる業務内容が合わずに、雇用に至らなかったケースもありました。

2.2.3 地域移行の促進

令和元年度の地域移行支援の支給決定者数は延べ14件でした。ステップアップ事業開始の令和2年度以降は、毎年延30件程度で推移しています。支給決定者のおよそ3割に対しては、本市事業の枠組み（表1）を活用して、修了生が地域移行支援の面談等で支援の介入ができています。医療機関において退院は難しいと考えられていた患者が、地域移行支援を利用しピアサポーターが介入したことで退院できたケースもみられ、「患者だけでなく医療機関にとっても『退院を諦めない』ことが再認識できる良い経験となった」という声もあがっています。

地域移行促進会議では、相談支援事業所のスタッフ同士が、地域移行支援の報酬算定や書類作成、ピアサポーターとの業務分担等、実務に関する悩みや課題を共有できました。地域移行支援の経験が少ない相談支援事業所も取り組みやすいよう、令和6年度は地域移行支援の流れや必要書類、関係機関との連絡調整のポイント等を整理したマニュアルを作成しています。

2.2.4 普及啓発

本市の地域ごとの健康づくりイベントで、「こころの健康コーナー」を設置し、ピアサポーターと訪れた市民と交流を図っています。

また、市政出前トークや市内の大学・専門学校などで、ピアサポーターによる体験談発表も行っています。

ピアサポーターと交流した市民や体験談発表を聞いた学生からは、「皆地域で暮らしている仲間である」「精神疾患は特別なものではない」「もっと生きやすい社会になってほしい」などの感想がありました。

2.3 今後の事業展開

令和元年度からの取組では、ピアサポーターとの協働を土台とした、地域づくりの推進、地域移行支援の充実を図ってきました。

月1回開催する「地域移行推進会議」は、本市の顔のみえる関係づくりのために欠かせないものとなっており、さらなる連携強化と支援体制整備のために、今後も継続する必要があります。より多くの精神科病院において退院支援が促進されるような方策を検討したいと考えています。

事業開始当初は、相談支援事業所でのピアサポーターの雇用が促進されることも狙いの一つとしていましたが、実際には雇用人数は頭打ちとなっており、修了生数に対して活躍できる場が不足している状況に直面しています。雇用促進を目指しつつ、まずはピアサポーターの養成とフォロー、活躍の場の整理・拡大を図る仕組みを検討し改善していく必要があります。

地域移行を促進するためには、ピアサポーターの活動基盤づくりと併せて、精神科病院や相談支援事業所が地域移行支援を活用した退院支援の経験を重ねることで、退院支援に対するハードルを下げるなどの意識変容を図ることが必要と考えています。ピアサポーターと共に支援することや入院中から地域の支援者が関わることによる地域移行・地域定着への効果について、実践を通して実感できるようになればと思います。

普及啓発におけるピアサポーターとの協働は、市民や学生の声からも、偏見などのスティグマの解消への効果が高かったと思います。「にも包括」において、地域の理解促進は不可欠ですので、地域活動支援センターの機能強化事業とも連動させるなど、地域資源を活用してピアサポーターの活躍の場の拡大を図りたいと考えています。

2.4 今回の寄稿について

今回の寄稿は、令和7年度の第67回鹿児島県公衆衛生学会および静岡市で開催された第84回日本公衆衛生学会総会において、本市の保健師が発表した内容を記載しています。

担当の保健師たちは、通常業務もあるなか、令和元年からの事業の取組をしっかりとまとめあげて発表しました。事業をまとめ・発表という学術的研鑽を積むことは、保健所全体のスキルアップのためにも必要です。また、市職員として異動は宿命ですが、まとめることで後任者にしっかりと引継ぎ、継続性のある事業展開などのBCPに繋がることにもなります。これらにより、本市の保健所業務が充実・強化され、より良い公衆衛生事業を市民へ提供できると考えます。今後も、保健所スタッフへ学術的研鑽を勧め、それに対する助言・支援を行っていきたいと思っております。

3 鹿児島市保健所 保健支援課

保健支援課は、今回述べた「精神保健福祉」に加えて、「難病対策」、「自殺予防」に関することが主な業務となっています。

お問い合わせなどありましたら、
電話：099-803-6929, Fax：099-803-7026 まで
お願いいたします。

また、保健支援課はInstagramも開設しており、業務に関するイベント・相談会などの情報を掲載しています。

公式アカウント：kagoshimacity_health,
URL：https://www.instagram.com/kagoshimacityhealth/, 二次元コード(図7)
ですので、是非ともフォローをお願いいたします。



図7 鹿児島市保健支援課 インスタグラム 二次元コード

謝 辞

本市の「精神障害者ピアサポーターとの地域づくり」に関する事業に、多大なご協力、貴重なご指導・ご助言をいただいております精神科医療機関、相談支援事業所、地域活動支援センター、基幹相談支援センター、および、ピアサポーターの皆さま方には、この場をお借りしまして御礼申し上げます。